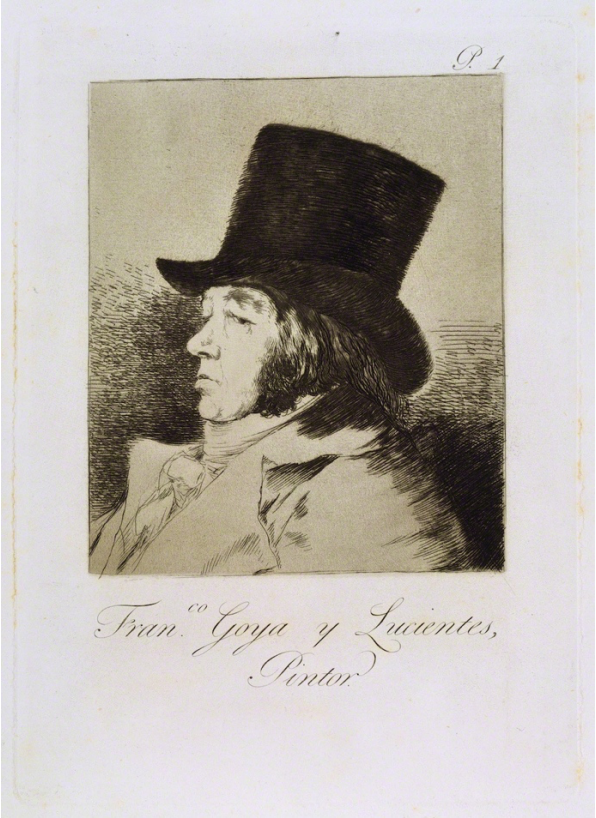
プレスリリース

東京富士美術館コレクション
フランシスコ・デ・ゴヤ　四大連作版画展
The Four Major Print Series of the Spanish Master, Goya



https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01621/

掲載の作品についてはキャプションの URL より画像ダウンロードと解説原稿が参照できます。

18 世紀から 19 世紀にかけて活躍したスペインの代表的画家、フランシスコ・ゴヤ・イ・ルシエンテスは（1746-1828）、版画家としても傑出した存在であり、版画史においてデューラー、レンブラントと並ぶ重要人物と位置付けられています。

彼が創作活動の後半に集中的に取り組んだ四大版画シリーズ、『気まぐれ（ロス・カプリチョス)』『戦争の惨禍（ロス・デサストレス・デ・ラ・ゲーラ)』『闘牛技（ラ・タウロマキア)』『妄（ロス・ディスパラテス)』は、鋭い社会批判、戦争による悲劇の記録、そして人間の内面的な葛藤を、卓越した描写力と独自の技法で表現したものです。

本展では、当館が収蔵するゴヤの四大連作版画全 215 点をまとめて公開いたします。これにより、ゴヤが版画に託した思想と、その技法の発展の全貌を、余すところなくご覧いただく貴重な機会となります。

◆開催概要

展覧会名：東京富士美術館コレクション
フランシスコ・デ・ゴヤ　四大連作版画展
The Four Major Print Series of the Spanish Master, Goya

会 場：東京富士美術館 本館 企画展示室
〒192-0016 東京都八王子市谷野町 492-1　TEL 042-691-4511

会 期： 2026 年 2 月 7 日(土)―3 月 22 日(日)

休館日： 月曜日、2/23(月祝)は開館、2/24(火)は休館

開館時間： 10:00～17:00(16:30 受付終了)

入場料金： 大人 1,000（800）円、大高生 600（500）円、
中小生 300（200）円、未就学児無料
※新館常設展示室もご覧になれます
※（　）内は各種割引料金
［20 名以上の団体、シルバー（65 歳以上)、
当館公式 SNS フォロワー・登録者ほか］
※土曜日は中小生無料
※障がい児者、付添者 1 名は通常料金の半額
［証明書をご提示ください］

主 催：　東京富士美術館

後 援：　八王子市、八王子市教育委員会

◆展示内容

フランシスコ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス（1746-1828）

Francisco de Goya y Lucientes (1746–1828)

18 世紀後半から 19 世紀初頭のスペイン美術界を牽引したフランシスコ・デ・ゴヤ。彼は単なる「宮廷画家」の枠を超えた、複雑な二面性を持つ芸術家でした。

最高峰である首席宮廷画家として権力者の肖像を描く傍ら、当時の社会が抱える病巣、戦争の悲劇、人間の内奥に潜む感情や狂気を、徹底的に現実的かつ幻想的な手法で作品に昇華。

この常識を打ち破る主題選択と表現の大胆さにより、ゴヤはしばしば「近代絵画の揺籃を築いた先駆者」として位置づけられています。

ゴヤの人生と芸術は、46 歳頃に襲った運命的な転機によって決定的に変わりました。

彼は重度の病気の後遺症により、両耳の聴力をほぼ完全に失うという困難に直面しました。この障害により、ゴヤの関心は外界の華やかな宮廷生活から、人間の内面、狂気、そして社会の深い闇へと向けられます。外界の音から隔絶されたことで、彼の芸術は内省的で暗いトーンへと大きく変化していきました。

ゴヤを単なる首席宮廷画家という立場から解放し、人間の深奥を描き出す「近代絵画の先駆者」へと押し上げる決定的な要因となったのです。

ゴヤの四大版画とは

ゴヤの四大版画とは、以下の 4 つの連作銅版画集の総称です。当館では以下の版画を所蔵しています

『気まぐれ』（ロス・カプリチョス）Los Caprichos（第 3 版）

1799 年に発表された全 80 点からなる版画集。当時のスペイン社会にはびこる人間の愚かさ、迷信、堕落、そして社会の闇を痛烈に風刺。旺盛な批判精神と独特の視点により、人間の本質に鋭く迫ったゴヤ初期の傑作です。

『戦争の惨禍』（ロス・デサストレス・デ・ラ・ゲーラ）Los Desastres de la Guerra（第 2 版）

対仏独立戦争の悲惨な現実を主題とし、ゴヤ没後の 1863 年に発表された全 80 点。戦争がもたらす人間の残虐性、極限の恐怖、民衆の生々しい苦しみを、一切の美化なく描き出し、歴史的な記録としての価値も有します。

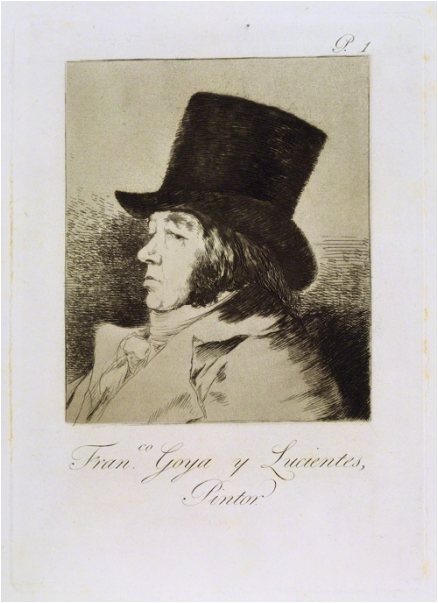
『闘牛技』（ラ・タウロマキア）La Tauromaquia（初版）

1816 年に発表された全 33 点の版画集。スペインの闘牛の歴史的変遷と技術を題材とし、伝統的な闘牛の場面から、動物と人間の迫力ある格闘、そして観衆の熱狂的な雰囲気までを、躍動感あふれる描写で表現しています。

『妄』（ロス・ディスパラテス）Los Disparates（初版）

ゴヤ最晩年に制作され、没後の 1864 年に発表された未完の全 22 点。人間の愚かさや社会の不条理といったテーマが、不可解で謎めいた幻想的なイメージによって象徴的に表現されており、ゴヤの精神世界を深く探る難解で深遠な最終連作です。

『気まぐれ』（ロス・カプリチョス）Los Caprichos より



《1 番　フランシスコ・ゴヤ・イ・ルシエンテス、画家》

1799 年／1868 年（第 3 版）

エッチング、アクアチント、ドライポイント、ビュラン

https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01621/

『気まぐれ』の巻頭を飾るゴヤの自画像は、作者の宣言です。

ゴヤは、この肖像によって、続く風刺画のすべてが「私の理性と知性」に基づいて描かれていることを表明しています。

これは、単なる画家の紹介ではなく、社会の闇と愚かさを批判する「証人・告発者」としてのゴヤ自身の覚悟と強い存在感を象徴しています。

《39 番　祖父の代まで》

1799 年／1868 年（第 3 版）

アクアチント

https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01659/

「この憐れな動物は、家系図学者や紋章官のおかげで気が狂ってしまっている。彼だけではない。」

プラド美術館の注釈書に残されたこの一文は、ゴヤの痛烈な皮肉を物語っています。

作品には、一匹のロバが、机の上に広げた家系図と、誇らしげに掲げるロバ家の紋章を前に立つ姿が描かれています。ロバは自らの先祖が皆ロバであったことを誇示していますが、その滑稽な姿は、血統や家柄のみを鼻にかける当時の貴族階級に対するゴヤの激しい嘲笑を象徴しています。

この版画は、無能な貴族が、家系図学者や紋章官の虚飾によって、自らの本質（＝ロバであること）を見失い、社会を衰退させている現実を痛烈に批判しています。

《43 番　理性の眠りは怪物を生む》

1799 年／1868 年（第 3 版）

エッチング、アクアチント

https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01663/

　プラド美術館に収蔵されている本作の素描には、作者（ゴヤ）の決意を示す次のような趣旨の注釈が付されています。

「夢を見ている作者。有害な迷信を打ち破り、この作品によって真実を永遠のものとすること。これが作者の唯一の目的である。」

ゴヤの目的は、単に空想を描くことではなく、当時の社会にはびこる迷信や愚行といった「有害なもの」を粉砕し、真実を版画という形で永遠に残すこと。すなわち、芸術を社会批判のための武器として用いるという、強い意志が表明されています。

『戦争の惨禍』（ロス・デサストレス・デ・ラ・ゲーラ）Los Desastres de la Guerra より

《7 番　何と勇敢な！》

1810-15 年頃／1892 年（第 2 版）

エッチング、アクアチント、バーニッシャー、ドライポイント、ビュラン

https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01707/

　『戦争の惨禍』の中で際立つ、一瞬の英雄譚です。

画面中央には、アウグスティーナ・デ・アラゴン—1808 年サラゴサ包囲戦の英雄—をモデルとした勇敢な女性が鮮烈に描かれています。周囲に兵士が倒れる絶体絶命の砲台の上で、彼女は火縄を手に、大砲の砲弾に点火しようとする極度の緊張の一瞬にあります。これは、フランス軍に弾薬庫を奪われそうになった際、アウグスティーナが迷わず行動し、大砲を点火して敵軍を食い止めた史実に基づいています。ゴヤは、この版画を通じて、戦争の惨禍の中でも失われない、一人の女性が示した驚くべき勇気と貢献を、永遠の賛辞として記録しています。

《44 番　私は見た》

1810-15 年頃／1892 年（第 2 版）

エッチング、ドライポイント、ビュラン

https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01744/

　「私は見た」と題されたこの版画は、ゴヤの目撃者としての強い決意を象徴します。

荒涼たる風景で繰り広げられるフランス兵の略奪と暴行、そして絶望的な表情で逃げ惑う女性や子どもたちの姿は、戦争が一般市民にもたらした広範な惨禍を雄弁に物語ります。

「私は見た」という告白は、この悲劇が体験された事実であるという強い訴えです。ゴヤの作品は、描写を超えて人類の残虐行為に対する倫理的な告発へと昇華しており、その強い意志を鮮明に表明しています。

《50 番　可哀そうなお母さん！》

1810-15 年頃／1892 年（第 2 版）

エッチング、アクアチント、バーニッシャー、ドライポイント

https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01750/

ゴヤは、特定の戦いや出来事ではなく、戦争という行為そのものを告発します。

無垢な命と、人類の最も根源的な絆である母子の愛情が、暴力の前でいかにたやすく、無意味に打ち砕かれるかを痛切に訴えかけます。最愛の子を守りきれなかった母親の絶望は、個人の愛情や抵抗が、戦争という巨大な暴力の前ではいかに無力であるかを象徴しています。

本作品は、『戦争の惨禍』シリーズの中でも最も深い感情的共鳴を呼び起こす傑作であり、人道的な視点から戦争を徹底的に弾劾するゴヤの揺るぎない強い意志を体現したものです。

《79 番　真理は死んだ》

1810-15 年頃／1892 年（第 2 版）

エッチング、バーニッシャー

https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01779/

この版画は、戦争が肉体だけでなく、理性や倫理といった精神的価値をも破壊するという、ゴヤの絶望的な認識を象徴します。

画面中央の裸の女性像（真理）は、生命を失ったように横たわっており、これは真実が圧政によって消滅したことを示唆しています。彼女を取り囲むのは、真理の死を喜ぶ闇の聖職者や権力者たちであり、反動的な勢力の台頭を象徴しています。

これは、ゴヤが信奉した啓蒙主義的な価値観が完全に踏みにじられたことに対する深い絶望の表れです。ゴヤは、この哲学的な作品を通じて、肉体の惨禍に勝る精神的・倫理的な惨禍を告発し、シリーズのクライマックスを飾る最も重い嘆きとしています。

『闘牛技』（ラ・タウロマキア）La Tauromaquia より

《1 番　昔のスペイン人が原野で馬に乗って
牡牛を狩る方法》

1816 年（初版）

エッチング、アクアチント、バーニッシャー、ドライポイント

https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01787/

『闘牛技』の第 1 番は、現代の闘牛の源流、古代スペインにおける牛追いを描いた作品です。

広大な原野で、馬に乗ったスペイン人が野生の牡牛を狩る緊迫の瞬間が、躍動的な構図と激しい線描で表現されています。

ゴヤは、この版画を序章とすることで、闘牛が単なるスポーツではなく、深い歴史と伝統、そして人間と動物の原始的な対決というテーマを持つ、民族的な起源に根ざした行事であることを力強く宣言しています。

《20 番　マドリード闘牛場で
　フアニート・アビニャーニが見せた敏捷さと大胆さ》
1816 年（初版）
エッチング、アクアチント
https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01806/

『闘牛技』第 20 番は、マドリードの闘牛場で活躍した名闘牛士フアニート・アビニャーニの敏捷さと大胆さを主題としています。

ゴヤは、アビニャーニが牡牛相手に見せる軽快で華麗な妙技の緊迫感とスピード感を、勢いのある線描とコントラストで表現。これは、闘牛が個人の技術と勇気の極限を追求する、芸術的なスペクタクルであったことを示す、シリーズ中盤の傑作です。

『妄』（ロス・ディスパラテス）Los Disparates より

《13 番　飛翔法》
1815-19 年／1864 年（初版）
エッチング、アクアチント、ドライポイント
https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/01955/

ゴヤ最晩年の「飛翔法」は、不条理な夢の世界を表現した版画です。

巨大な翼を背負い、闇の中を滑空しようとする人物たちは、不安と陶酔が入り混じる複雑な感情を見せます。この謎めいた雰囲気は、ゴヤの得意な深いアクアティントによって強調されています。

この飛翔のイメージは、現実からの逃避や自由への強い願望の象徴ですが、不安定な姿は人間の試みの愚かさをも暗示します。この作品は、自由への渇望と社会への絶望の間で揺れるゴヤの晩年の精神世界を映し出す、象徴的な傑作です。

《20 番　几帳面の妄》
1815-19 年／1877 年（初版）
エッチング、アクアチント
https://www.fujibi.or.jp/collection/artwork/03571/

『妄』の「几帳面の妄」は、意味不明な愚行が、まるで厳格な儀式であるかのように律儀に行われている様子を描いた、皮肉に満ちた版画です。

画面の人物たちは、奇妙な衣装やポーズで無目的な行列を組んでおり、その光景は滑稽であると同時に不気味です。

ゴヤは、この「几帳面な妄」というタイトルと描写を通じて、当時の社会にはびこる形式主義や無意味な慣習、そして権威に盲目的に従う愚かさを、冷徹に告発しています。

【ゴヤ版画の表現力を支える複合技法】

ゴヤの四大版画の強烈な陰影表現と臨場感は、複数の版画技法を複合的かつ革新的に組み合わせることによって生み出されました。

エッチングを用いて基本的な構図の線描を確立し、

ゴヤの代名詞とも言える**アクアチント**により、水彩画のような豊かな濃淡と深い闇を表現。

さらに、**ドライポイント**や**ビュラン**といった直彫り技法で、描線の質感と深みを際立たせ、

最後に**バーニッシャー**で版面を磨き、意図的に光と闇の緻密な調整を行いました。

ゴヤはこれらの技法を自在に操ることで、版画に絵画に匹敵する、あるいはそれを超える表現力と芸術的深みを与えたのです。

用語技法の概要と特徴

〇エッチング (Etching)**【腐食銅版画の基本】** 銅板に防食剤（グランド）を塗り、ニードルで線を描き、その後、腐食液（酸）に浸して線を掘る技法。線の自由度が高く、流れるような描写が可能。

〇アクアチント (Aquatint)**【ゴヤが得意とした技法】** 銅板に松脂などの粉末を付着させ、酸で腐食させて粒状のざらざらした面（トーン）を作る技法。水彩画のようなぼかしや濃淡の表現が可能で、ゴヤの版画の陰影表現に不可欠。

〇ドライポイント (Drypoint)**【直接彫り込む技法】** 銅板にニードルで直接線を描き、掘り起こした金属のめくれ（バリ）を残す技法。バリがインクを保持することで、柔らかく、にじんだような独特の線を生む。

〇ビュラン (Burin)**【硬い線を生む道具】** V 字型や U 字型の刃を持つ専門の道具。

銅板に直接、深く、精密な溝を彫り込んで線を作る。硬く、均質な線が得られる（エングレーヴィング技法）。

〇バーニッシャー (Burnisher)**【版を修正する道具】** 銅板の表面を磨き、修正や加筆を行うための道具。酸で深く腐食させすぎた部分や、意図しない線を消したり、明部を加えたりするために使用される。

東京富士美術館について

当館は 1983 年 11 月、東京・八王子市に設立された総合的な美術館です。コレクションは日本・東洋西洋の各国、各時代の絵画・版画・写真・彫刻・陶磁・漆工・武具・刀剣・メダルなど様々なジャンルの作品約 30,000 点で形成されています。
「世界を語る美術館」を“永遠の指針”としてこれまで各国地域の優れた文化を新しい視点から紹介する海外文化交流特別展を国内外で活発に開催し、1990 年には日本の外務省より「外務大臣表彰」を受彰。2008 年には新館がオープンし、常設展示室ではルネサンスからバロック・ロココ・新古典主義・ロマン主義を経て、印象派・現代にまで至る西洋絵画 500 年の油彩画コレクションが一望できるようになりました。

問い合わせ先：TEL 042-691-4511 FAX 042-691-4623
E-mail: toiawase@fujibi.or.jp